

第43回
むし歯予防
全国大会
in ISHIKAWA



フッ化物で育む未来の健口
～はじめての一步を踏み出そう むし歯ゼロ社会をめざして～

【日時】令和4年11月5日(土) 14:00~17:30 【会場】石川県立音楽堂交流ホール
〒920-0856 石川県金沢市昭和町20-1

主催：NPO法人日本フッ化物むし歯予防協会

共催：石川県歯科医師会・石川県

後援：日本歯科医師会・8020推進財団・日本学校歯科医会・日本歯科衛生士会・日本口腔衛生学会・日本WHO協会
石川県教育委員会・石川県医師会・石川県薬剤師会・石川県看護協会・石川県栄養士会・石川県歯科衛生士会
石川県歯科技工士会・金沢市・金沢市教育委員会・金沢市歯科医師会・北國新聞社・石川テレビ放送
HAB北陸朝日放送・NHK金沢放送局・MRO北陸放送・テレビ金沢・北陸歯科用品商協同組合

協賛：日本歯磨工業会

写真：鼠多門・石川門／兼六園のことじ灯籠

第43回むし歯予防全国大会 in ISHIKAWA

テーマ「フッ化物で育む未来の健口」
～はじめの一步を踏み出そう
むし歯ゼロ社会をめざして～

タイムスケジュール

司会 石川県歯科医師会公衆衛生部理事 宮田 英利

14:00	● 開 会	第43回むし歯予防全国大会実行委員長／石川県歯科医師会専務理事	佐藤 修
	● 挨拶	第43回むし歯予防全国大会会長／石川県歯科医師会会長 NPO法人日本フッ化物むし歯予防協会会長	飯利 邦洋 荒川 浩久
	● 祝 辞	石川県知事 金沢市長	馳 浩 村山 卓
14:20	● 基調講演 1	「むし歯に関する最先端の科学とは？」 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野	教授 相田 潤
15:20	● 基調講演 2	「歯科保健を取りまく環境」 厚労省医政局歯科保健課	課長 小椋 正之
16:00	● シンポジウム	コーディネーター：石川県歯科医師会公衆衛生部	理事 江尻 重文
	● 新潟県におけるフッ化物洗口の取組とその考え方	新潟県福祉保健部健康づくり支援課	課長補佐 清田 義和
	● 石川県における「子どものむし歯予防対策推進事業」	石川県健康福祉部健康推進課	主幹 平田 佳永
	● 県の導入支援で始まったかほく市こども園でのフッ化物洗口事業	かほく市健康福祉部健康福祉課	保健師 北市美沙紀
	● 金沢市立保育所におけるフッ化物洗口導入の事例	金沢市立中村町保育所	所長 浦島 久美
	● 基調講演演者を含めたディスカッション		
17:30	● 閉 会	NPO法人日本フッ化物むし歯予防協会副会長	安彦 良一

第43回むし歯予防全国大会事務局

〒920-0806 石川県金沢市神宮寺3丁目20番5号 一般社団法人 石川県歯科医師会 内
TEL：076-251-1010(代) FAX：076-251-6450 E-mail：8020@ida1926.or.jp



ご挨拶

一般社団法人 石川県歯科医師会 会長

飯 利 邦 洋

この度、第43回むし歯予防全国大会を石川県において開催できますことは、本県の歯と口腔の健康づくり推進に関わる者として、この上ない喜びでございます。開催にあたり、主催者であるNPO法人日本フッ化物むし歯予防協会はもとより、共催をいただきました石川県、そして後援、協賛をいただきました関係者の方々には多大なるご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

8020達成者は、全国的平均が50%（平成28年歯科疾患実態調査）を超えている中、石川県においては28.0%（令和元年県民健康・栄養調査）と大きく下回っています。8020達成を目指すには、すべてのライフステージで切れ目のない歯科保健対策を展開することが重要です。しかしながら本県におけるライフステージ初期の子どものむし歯について見てみますと、12歳児DMF歯数は年々減少傾向にはあるものの、全国平均よりも劣っており（令和2年度 石川県：0.80本、全国平均0.68本）、また県内で地域差もみられます。

むし歯予防に効果的な手法とされております、施設等での集団的フッ化物洗口は、本県の小中学校では全く実施されておらず、保育施設においては令和2年度、県内全19の市町のうち、8つの市町において実施されたものの、施設実施率としては15.6%と、かなり低いのが現状です。そこで令和2年度から県による「子どものむし歯予防対策推進事業」が開始され、フッ化物洗口未実施施設への導入支援が始まったところ です。

そこで本大会では、テーマに「フッ化物で育む未来の健口～はじめの一步を踏み出そう むし歯ゼロ社会をめざして」を掲げ、フッ化物の効果や、むし歯予防の先進的な取り組みを、関係機関や県民に向けて強く発信したいと思います。

フッ化物に関する理解が深まりフッ化物洗口の導入が進めば、子どものむし歯予防と地域格差の解消といった直接的な効果に加え、子どもとその保護者だけでなく、施設関係者など地域全体の、口腔の健康への関心が高まり、ひいては健康寿命延伸に繋がることが期待されます。今大会が歯科保健全般の活性化のきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、NPO法人日本フッ化物むし歯予防協会の今後ますますのご発展と、本大会の開催にご尽力いただきました関係各位、ご参加の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。



第43回むし歯予防全国大会を機に、 フッ化物利用を目指す石川県を 支援しましょう！

NPO法人 日本フッ化物むし歯予防協会 会長

荒 川 浩 久

本日、第43回むし歯予防全国大会が、石川県知事 馳 浩様、金沢市長 村山 卓様、石川県歯科医師会会長 飯利邦洋様をはじめ、皆様方のご理解、ご協力、ご尽力のもとに、この石川県で開催されますこと、誠に有難うございます。石川県では、公衆衛生的フッ化物利用である「学校などの施設におけるフッ化物洗口」がなかなか進まないなか、石川県歯科医師会の先生方ならびに石川県の皆様が、何とかはじめの一歩を踏み出したいという思いで企画されました。

2016年度の全国の施設におけるフッ化物洗口実施数は12,103施設で、実施人数は1,272,577人でしたが、その2年後の2018年度は、それぞれ14,158施設、1,526,857人と増加しております。残念ながら石川県では32施設、805人で、永久歯のむし歯予防に大切な時期である小中学校での実施はゼロに止まっています。この大会を機に普及されることを願ってやみません。

さて、この協会の前身である「フッ素によるむし歯予防全国協議会」が1977年6月に第1回全国大会を開催して45年になりました。私は本年9月にNPO法人日本フッ化物むし歯予防協会会長に就任して間もない立場ですが、1981年の北海道での全国大会に初めて参加し、それ以来本協会の会員となり、何とか日本中にフッ化物利用を普及させ、国民の歯・口腔、そして全身の健康増進に寄与できればという思いで活動し今日に至りました。

子どもたちのむし歯は減っていますが、まだまだむし歯の課題は山積しています。多数の歯が残るようになった高齢者は増え続けています。それにともなって歯肉の退縮が進み、歯根が露出し、保存修復処置に悩まされる根面むし歯が増えています。むし歯が発生する時期は遅れても、一生涯を考えればむし歯は増えているのです。子どもの咬合面（奥歯の噛む面）むし歯から、成人の隣接面（歯と歯の間の面）むし歯、そして高齢者の歯根（歯の根の面）むし歯まで、一生涯を通じてむし歯予防できる手段は、地域水道水のフッ化物濃度を適正に保つ「水道水フロリデーション」と「フッ化物入り歯磨き剤」の適正使用です。このフッ化物全身応用と局所応用の両輪の駆動が最適なわけですが、フッ化物全身応用未実施の日本では、永久歯萌出期からのむし歯予防対策として、子どもを対象にフッ化物洗口を行う公衆衛生手段が、きわめて有効で実施が望まれています。

本日、本大会に参加されました皆様には、本協会の趣旨に賛同いただきまして、健康（口）増進の一助として、フッ化物利用の推進に向けて取組んでいただけることを切にお願い申し上げます。



祝 辞

石 川 県 知 事

馳 浩

「第43回むし歯予防全国大会 in ISHIKAWA」が、ここ石川の地において開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国各地からご来県いただきました皆様を心から歓迎申し上げます。

本大会の主催であるNPO法人日本フッ化物むし歯予防協会は、昭和52年の発足以来、40年以上の長きにわたり、フッ化物応用によるむし歯予防の正しい理解と普及を目指して、各地域で様々な公衆衛生活動を展開されるなど、歯科保健の推進に多大な貢献をしてられました。歴代の会長をはじめ、役員、会員の皆様のご尽力に対し、深く敬意を表します。

さて、今や日本は、世界トップの長寿国ですが、単に長寿というだけではなく、いわば長生きの質が問われており、生涯にわたり元気で自立して暮らせるよう「健康寿命」を延ばすことがとても重要です。

このような中、歯と口腔の健康を維持することは、からだ全体の健康の保持増進にも繋がることから、本県では、平成26年6月に「石川県歯と口腔の健康づくり推進条例」を制定したほか、県の歯科保健計画である「いしかわ歯と口腔の健康づくり推進計画」に基づいて、歯と口腔の健康づくりに関する様々な施策に取り組んでいます。

県では、石川県歯科医師会と連携して、定期的に歯科健診を受けることの重要性やフッ化物応用に関する正しい知識について、これまで普及啓発に取り組んできた結果、子どものむし歯は年々減少するなど、着実に効果が出てきています。

この流れを加速させるため、県では、令和2年度から「子どものむし歯予防対策推進事業」を開始し、保育施設等におけるフッ化物洗口の導入を後押ししています。こうした取組により、フッ化物洗口を実施する施設は増加しており、本大会の開催を契機として、フッ化物を応用したむし歯予防に対する県民の理解が一段と深まり、実施施設の更なる増加に繋がることを期待しております。

ご来県いただきました皆様方には、せっかくの機会ですので、日本三名園の一つである兼六園や金沢城公園など加賀百万石の歴史や文化、世界農業遺産「能登の里山里海」に象徴される豊かな自然や新鮮な海山の幸、さらには全国有数の温泉など、本県の多彩な魅力もご堪能いただけると幸いです。

結びに、本大会の開催にご尽力されました、NPO法人日本フッ化物むし歯予防協会、石川県歯科医師会をはじめ、関係者の皆様方に心から感謝申し上げますとともに、本大会の成功と参加者の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。



第43回 むし歯予防全国大会 in ISHIKAWA 祝 辞

金 沢 市 長

村 山 卓

第43回むし歯予防全国大会が、ここ石川県金沢市において盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、全国各地からお越しいただきました皆様方を心から歓迎申し上げます。

皆様方には、日頃から地域に根ざした歯科保健の充実や、歯と口の健康づくりの推進にご尽力いただいておりますことに対し、深く敬意と感謝を表する次第です。

長い人生を健康で豊かに送ることは、国民共通の願いです。その中でも、歯と口の健康は、食べる喜び、話す楽しみを保つことにより、身体的な健康のみならず社会的な健康と生活の質の向上に大きく寄与するものであり、大変重要です。

本市においては、金沢健康プランに基づき、歯の喪失防止や歯周病を有する人の割合の減少などを目指して、ライフステージごとの特性を踏まえた歯と口の健康に関する正しい知識や実践方法の普及推進に努めています。学校におけるむし歯や歯周病を予防する生活習慣に関する保健指導、高齢者に対するオーラルフレイル予防の取り組み、若年者から高齢者までを対象とした歯科健診などを実施してきたところです。

また、平成29年に制定された「金沢市歯と口の健康づくり推進条例」を機に、翌年より金沢市立保育所からフッ化物洗口を開始し、令和元年度からは民間の保育所や幼稚園に対してフッ化物洗口導入に対する補助を行い、その実践を図っているところです。

このような中、「フッ化物で育む未来の健口」をテーマとした本大会が、本市で開催されますことは大変意義深く、本大会を契機として、フッ化物洗口の有効性とその実践が、今後ますます広がっていくことを期待する次第であります。

また、本市では、歯と口の健康施策にあたって、歯科医師の皆様方のご協力により推進してまいりました。先般、国において、全国民に毎年、歯科健診を受けてもらう国民皆歯科健診の導入に向け、検討を始めるとの方針が打ち出されました。このような取り組みを現場において実行していくにあたって、皆様方には、今後ともなお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、本市には古くから受け継がれてきた伝統や文化が色濃く残っており、そこに新たなものを取り込むことで、多様な文化が生活の中に息づいています。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症のため、残念ながら、本市で開催予定であったほとんどの学会等が中止を余儀なくされましたが、今年に入り、徐々にではありますが、現地開催が再開されるようになりました。今回、金沢にお越しいただいた皆様方にも、この機会に石川・金沢の豊かな食や文化についてもご堪能いただければと思います。

結びに、本大会の開催にあたりまして、ご尽力を賜りました一般社団法人石川県歯科医師会をはじめ、関係者の皆様に敬意を表しますとともに、皆様方のご健勝と本大会のご成功を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。



祝 辞

公益社団法人 日本歯科医師会 会 長
公益財団法人 8020推進財団 理事長

堀 憲 郎

第43回むし歯予防全国大会 in ISHIKAWAの開催をお祝い申し上げます。

今大会は「フッ化物で育む未来の健口」とのテーマのもとで、基調講演やパネルディスカッション等、健康長寿社会の実現に向けて国民の健康意識をさらに高める企画を盛り込み、全国より多数の歯科保健関係者等のご参加を得て、盛大に開催されると承知しております。先進県や地域の活動を踏まえ、フッ化物応用による虫歯予防法の有用性や、フッ化物により子どもたちの健康増進に繋げていくための施策等について、活発な討議が行われ、国民の歯・口腔の健康の保持・増進の一助となることを期待しております。

最新の文部科学省の学校保健統計調査結果によりますと、12歳児の永久歯の一人当たり平均むし歯数は、統計上の数字がある1984年から、一度も増えることなく減少を続け、2015年には1.0本を切り、令和2年度調査では0.68本になっています。さらに、「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」で国が掲げた「12歳児でう蝕のない者の割合の増加」という目標も、策定時の平成23年は54.6%であったものが目標値65%を上回る68.2%を達成しました。これらの成果は、近年のフッ化物応用の推進、有効性の実証等、多くの関係者の皆様のたゆまぬご尽力の結果であると改めて感謝申し上げます。

10年前の歯科口腔保健法の施行や30余年に亘る8020運動、更には口腔の健康が全身の健康に関係することについてのエビデンスの発信により、生涯にわたる歯科口腔保健の重要性が深く認識され、国の政策方針である「骨太の方針」の歯科に関する記載内容は年々充実しています。将来に向けて歯科界が目指す「歯科医療と口腔健康管理の充実により、国民の健康寿命の延伸を図り、働き手や支え手を増やすことで人口減少問題にも貢献する」との方向性を国が共有していることを高く評価するとともに、国民の皆様からは、健康寿命の延伸に向けてかつて無い歯科への期待が高まっていると感じます。日本歯科医師会は、それらの各方面からの期待に応えるため、一昨年に取り纏めた「2040年を見据えた歯科ビジョン」の実現に向けたアクションプランに沿って具体的な対応を進めているところであり、今大会に参加される皆様からのご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新型コロナウイルス感染症の影響の続く厳しい状況下で、本大会の開催にご尽力された飯利邦洋大会長、主催者である日本フッ化物むし歯予防協会等関係者の皆様、共催をお引き受けいただいた石川県歯科医師会、石川県をはじめとする多くの関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、大会の今後益々のご発展と、参加者、関係者の皆様のご健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

公益社団法人 日本学校歯科医会 会長

川 本 強

第43回 むし歯予防全国大会 in ISHIKAWAのご盛会を心よりお慶び申し上げます。

また、本日ご参集の皆さまには、平素より日本学校歯科医会の会務運営に格別のご理解とご協力を賜わり、この場をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げます。

さて、今大会では、メインテーマを『フッ化物で育む未来の健口』、サブテーマとして『～はじめの一步を踏み出そう むし歯ゼロ社会をめざして～』と定めておられます。

むし歯ゼロ社会へのはじめの一步は、まさに本会に課せられた使命そのものでもあり、基本的な歯みがきの習慣化の絶好時期である学校歯科保健が、生涯にわたる口腔の健康維持の礎を形成するその先鋒、魁を担う立場にあると自負をしております。加えて、歯科医師としての私の長年の願いは、「平均寿命」と「健康寿命」を限りなく近づけることであり、「未来の健口」というキーワードを拝見した時、まさに我が意を得たり、との心境に至った次第でございます。

日常の歯みがき習慣化とともに、むし歯予防に関する優れた効能を有する「フッ化物洗口」については、学校歯科保健活動の一環として展開されることにより、児童生徒の歯・口の健全な育成に向けた取り組みが車の両輪の如く、相互に融合、相乗効果をもたらし顕著な成果に繋がるものと確信をいたしております。

かつての「むし歯の洪水」と言われた時期を経て、本会が展開した「むし歯半減運動」もその一助となり、令和3年度調査速報では12歳児のう蝕は0.63本となるまでに改善しております。

しかしながら、むし歯ゼロ社会に向けた口腔の健康維持増進指導は、終わりのない日々の積み重ねであります。日本学校歯科医会は、今後とも家庭、学校、養護教諭、かかりつけ歯科医をはじめ、児童生徒の成長に関わる多様な領域の関係者の方々と連携して、児童生徒の口腔の健康保持のため、今後も努力を重ねてまいります。何卒、倍旧のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今大会が、むし歯予防事業にむけてのさらなる充実、発展に繋がる嚆矢となることをご祈念申し上げるとともに、本日の大会開催にご尽力されました関係各位とご参集の皆さまの益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



第43回むし歯予防全国大会の 開催にあたって

一般社団法人 日本口腔衛生学会 理事長

天 野 敦 雄

第43回むし歯予防全国大会が石川県歯科医師会関係の方々のご尽力を得て、金沢市で開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

日本口腔衛生学会は「生涯28(ニイハチ)」を学会声明としております。この意は「生涯、歯を失わない」ではなく、「健康な歯とともに健やかに生きる社会作り」、つまり誰もが安心して健口を享受できる社会を作ることです。健口を守り・つくり、そして命を支えることは、人生100年・生涯現役社会を目指す我が国にとって重要な課題です。日本が世界一の老人国となる2040年問題の解決のためにも、日本口腔衛生学会は生涯28の実現に向け着実に歩みを重ねてまいります。

この歩みのためには、国民の全年齢層における更なるフッ化物の応用が望まれます。フッ化物応用によるう蝕予防の有効性と安全性は、すでに国内外の多くの研究により示されており、口腔保健向上のためにフッ化物の応用は今後とも重要な役割を果たしていかなければなりません。

わが国においては、世界保健機関等の勧告に従って、歯科診療施設等で行うフッ化物歯面塗布法、学校等での公衆衛生的応用法や家庭で行うフッ化物洗口法、フッ化物含有歯磨剤によって、フッ化物応用によるう蝕予防が行われてきました。特に、1970年代からフッ化物洗口を実施している学校施設の児童生徒には、う蝕予防に顕著な効果が見られており、各自治体の歯科保健施策の一環としてフッ化物洗口の普及が進められております。

さらに近年、フッ化物による再石灰化が初期う蝕への対処法として有効な手段であることが明らかになっており、削らないう蝕治療法としてフッ化物の役割が改めて注目されています。今後とも、フッ化物応用に関する正しい知識とフッ化物応用の実践が我が国において拡大することが期待されます。

最後となりますが、本大会の成功と関係各位の今後ますますのご発展をお祈り申し上げ、私のお祝いの言葉と致します。この度は誠にありがとうございます。



第43回むし歯予防全国大会 祝 辞

公益社団法人 日本歯科衛生士会 会長

吉 田 直 美

このたび、「第43回むし歯予防全国大会」が「フッ化物で育む未来の健口 ～はじめの一步を踏み出そう むし歯ゼロ社会をめざして～」をテーマに、石川県にて開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

日本における小児のむし歯罹患率は年々減少しており、80歳で20本以上の歯を有する人の割合は平成28年で51%に達しています。歯周病と並んで歯を失う主要因であるむし歯の予防においてフッ化物の応用は大きな役割を果たしています。昭和52年からむし歯予防全国大会を続けてこられ、フッ化物洗口をはじめとするフッ化物応用の啓発と普及ならびにエビデンスの蓄積に努めてこられた皆様のご功績に心よりの敬意を表します。

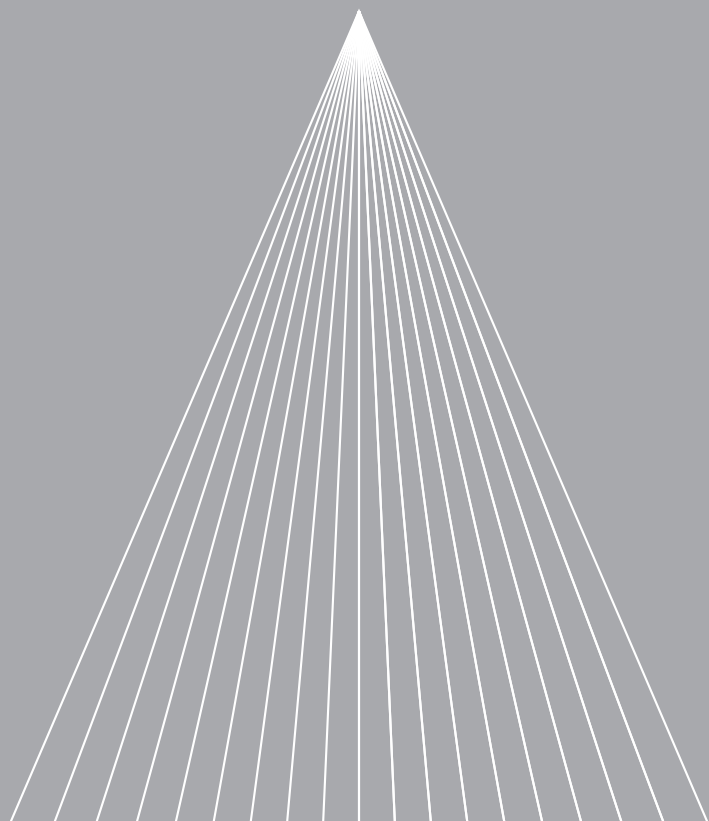
歯数の減少は咀嚼能力を低下させ、偏った食生活から、栄養不良あるいはメタボリックシンドローム、生活習慣病につながる可能性が示されており、むし歯予防は全身の健康につながる重要な取り組みです。今大会を共催される石川県では、むし歯予防の基礎的知識からフッ化物洗口の実際まで、網羅的にとても分かりやすくまとめられた「フッ化物洗口マニュアル」を令和3年に作成され、フッ化物洗口の普及に努めておられます。そのマニュアルには、幼児期から学童期にわたってフッ化物洗口を行った場合のむし歯予防効果が大人になっても持続するとの報告も記載され、この時期のフッ化物洗口の将来にわたる有用性が明示されています。

今大会のテーマに示された、フッ化物応用により未来の口腔健康を育み、むし歯ゼロの社会という大きな理想に向かって一步を踏み出そうという、皆様方の強い意気込みに感銘を受けております。また、フッ化物洗口についての基本的な情報ならびに国の施策をうかがって、むし歯予防におけるフッ化物応用に関する理解を深めるとともに、石川県および新潟県における取組のご報告をうかがうことを楽しみにしております。

今後、日本歯科衛生士会といたしましても、フッ化物応用に関する正しい知識の普及とむし歯予防活動をさらに推進し、子どもたちはもとより、全世代の皆様の歯科保健の向上を通じた健康長寿を目指し、地域の取り組みとの連携を図って参りたいと考えております。

最後に、このたびの全国大会の開催にあたり、関係各位の並々ならぬご尽力に敬意を表しますとともに、本大会のご成功およびご参加されます皆様の益々のご活躍を心からお祈り申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。

基 調 講 演
・
シンポジウム





むし歯に関する最先端の科学とは？

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 教授

相 田 潤

科学の世界は日々進歩しています。むし歯に関する科学も進歩しています。この進歩をけん引しているのは、日本よりもむし歯の減っている欧米からの多くの論文によるものですが、日本からも相対的に少ないですが研究が行われ科学の進歩に貢献しています。

日本からの研究が相対的に少ないのはなぜでしょうか？その理由を私は「むし歯が昔より減ったことが強調されすぎていて、今現在の問題を評価・研究する意識が少なくなった」ことだと考えています。実は他の病気と比べると、今日においてもむし歯は多く、そのため子どもや成人の国全体の医療費としては、歯科医療費は他の生活習慣病と比較しても引けを取らず、年齢によっては最も多い疾患となります。日本よりもむし歯の少ない欧米の国々では、こうしたことが認識され、時代に応じた研究が行われています。しかし日本では、国の研究費配分を見ても、むし歯に関する研究が極めて少ない状況があります。

こうした背景があり、日本においてむし歯研究は必ずしも多くなく、そのため近年の科学的な知識も広く普及しているわけではありません。しかしながらここ数年、厚生労働省は子どものころのフッ化物洗口の経験が、大人になってからむし歯が少ないことにつながるのかを実証する調査を実施したり、幼稚園・保育園・子ども園・学校などにおける集団フッ化物洗口を推進するためのマニュアルの作成を行っています。

そこでこの講演では、これらの厚生労働省の研究を含め、過去10年ほどに進展したむし歯に関する研究の中で、疫学公衆衛生分野の研究を中心に紹介をします。紹介にあたっては、近年の科学研究の成果ともいえる、2021年の世界保健機関総会における「口腔保健の決議」の内容に沿って行います。今回のお話が、今の日本でも罹患した人には負担となっている、そして日々人々が予防のために行動をし、歯科医療職種は治療にあたっている、「むし歯」について科学的知見の普及の一助になり、現実的にむし歯とその格差を減らす集団フッ化物洗口をはじめとしたフッ化物応用の普及に資すれば幸いです。

Keynote speech



歯科保健を取りまく環境

厚生労働省医政局歯科保健課 課長

小 椋 正 之

平成23年に公布・施行された「歯科口腔保健の推進に関する法律」の第一条には、「口腔の健康が国民が健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たしているとともに、国民の日常生活における歯科疾患の予防に向けた取組が口腔の健康の保持に極めて有効であることに鑑み、歯科疾患の予防等による口腔の健康の保持の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、歯科口腔保健の推進に関する施策の基本となる事項を定めること等により、歯科口腔保健の推進に関する施策を総合的に推進し、もって国民保健の向上に寄与することを目的とする」とされています。

そして、平成24年、この法律に基づき、国では歯科口腔保健の総合的な実施のための方針、目標、計画その他を定めた「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項（以下、基本的事項とする）」を策定しました。この基本的事項では、う蝕などの歯科疾患を未然に予防し、歯の喪失を防ぐため、

歯科疾患の予防における目標、計画の

- (1) 乳幼児期 健全な歯・口腔の育成
- (2) 学 齢 期 口腔状態の向上
- (3) 成 人 期 健全な口腔状態の維持
- (4) 高 齢 期 歯の喪失の防止

において、う蝕予防方法の普及として、シーラントや定期的な歯科検診（歯科健診）等に加えて、フッ化物の応用が挙げられています。

この基本的事項については、健康日本21と密に連携を図りつつ、平成24年から5年後の平成29年に中間評価を行い、目標値の見直しなどを行いました。そして、平成24年から10年後となる今年度は最終評価を行っているところで、令和4年秋頃には最終評価を公表したいと考えています。今後、今年度中には次期の基本的事項を策定していく予定としています。

その一方で、厚生労働省としては「フッ化物洗口のガイドライン（以下、ガイドラインとする）」を示しています。このガイドラインは平成15年に作成され、かなりの年月が経過しましたので、今年度中に内容の見直しを行う予定としています。

当日は歯科保健に係る国の施策について概説する予定としています。今後とも厚生労働行政にご理解、ご協力の程をどうかよろしくお願いいたします。



新潟県におけるフッ化物洗口の取組とその考え方

新潟県福祉保健部健康づくり支援課 課長補佐

清 田 義 和

本県では、昭和56年度に全国に先駆けて県歯科保健計画を策定し、集団フッ化物洗口を中心としたむし歯予防対策を推進してきた。その結果、12歳児一人平均むし歯数が全国最少となるなど大きな成果をあげている。直近のデータ（令和3年）では、12歳児一人平均むし歯数は0.25本、むし歯の全くない12歳児の割合は87.7%に達しており、他県からみると、新潟県では子どものむし歯がほぼなくなったようなイメージに映るかもしれない。

しかし、それは違う。いまだにむし歯は児童生徒の罹る病気の上位に位置し、県全体でむし歯のある12歳児は約2,200人、むし歯の総数は約4,500本、17歳だとそれぞれ、約5,100人、約15,700本にもなる。全国最少を続けている新潟県であっても、こうした数字をみれば、「むし歯がほぼなくなった」という状況ではないことが分かる。また、新潟県内のすべての施設で集団フッ化物洗口が実施されているわけではない。まだ普及の途上であり、今でも実施施設は少しずつ増え続けている。

新潟でフッ化物洗口が始まってから50年以上経つが、こうした現状をみれば、集団フッ化物洗口の目的や必要性、基本となる考え方は今も昔も変わっていない。集団全体のむし歯を減らし個人の健康格差を縮小することが目的であり、そのためには、ポピュレーションアプローチであること、できる限り早い時期から始めること、継続できる仕組みとすることが重要である。また、実施の前提として、関係者の理解が欠かせない。特に現場の学校等職員に多大なご協力をいただいていることで、事業が成り立っている。

今後のフッ化物洗口のさらなる普及の参考として、こうした本県の現状や、取組とその考え方を紹介したい。

Symposium



石川県における 「子どものむし歯予防対策推進事業」

石川県健康福祉部健康推進課 主幹

平 田 佳 永

石川県には歯科医師の養成施設がなく、令和2年の医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）では、県内の歯科医師数は人口10万対で65.3人であり、全国の85.2人より少ない。

また、本県では、平成27年度に歯科医師1名が初めて採用されるまで、県行政に歯科職がおらず、各市町においても同様に、歯科職以外の力により、地域での歯科保健施策を推進してきた経緯がある。

こうした中、平成26年6月に、「石川県歯と口腔の健康づくり推進条例」が制定され、県の歯科保健計画を策定するとされたことを受け、より詳細なデータ分析を行ったところ、本県では、歯科受診が少ない傾向にあることや、成人の歯の喪失が多いことが課題であると示唆された。

フッ化物洗口により得られたむし歯予防効果は、成人になってもその効果が持続することが知られている。本県では、成人期での歯の喪失を防ぐため、働く世代に対する歯周病予防を推進しているが、フッ化物洗口を行えば、小児期のみならず、成人してもむし歯予防効果が見込めるため、洗口経験者が増えることにより、将来的に本県の歯の喪失状況が改善する可能性がある。

このように、フッ化物洗口の効果を少しずつ訴えてきたことで、本県では、令和2年度に「子どものむし歯予防対策推進事業」を初めて予算化することができた。本事業は、新たに集団でのフッ化物洗口を行う保育施設等に対して、説明会の開催や必要物品の支給等の支援を行い、当該施設においてフッ化物洗口の円滑な導入を図ることを目的としている。

しかしながら、現在、事業開始から3年目となるが、これまでに本事業を活用してフッ化物洗口を開始したのは、2市10園にとどまっており、想定より普及が進んでいない状況である。その理由を確認したところ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や職員の負担増加、フッ化物の安全面等を懸念する声があり、フッ化物洗口に対する正しい理解が得られていないことが一因であると思われる。また、地域での集団洗口の実施には、地元歯科医師の協力が欠かせないが、歯科医師のマンパワー不足等が影響している事例もあった。

県では、これまで、市町の担当者や保育施設の職員等を対象とした研修会で、フッ化物洗口の有効性を普及してきたところであるが、引き続き、洗口についての正しい理解を図るとともに、県歯科医師会及び郡市歯科医師会と連携し、洗口実施施設の増加を図ってまいりたい。



県の導入支援で始まった かほく市こども園でのフッ化物洗口事業

かほく市健康福祉部健康福祉課 主任保健師

北 市 美沙紀

かほく市では、令和2年度より「子どものむし歯予防対策推進事業」に参加し、こども園年長児を対象にフッ化物洗口を実施している。小規模の公立こども園1園から開始し、今年度は公立こども園全園で実施することとなった。

かほく市では、「幼児・学童児のむし歯保有率が多い」「8020保有者が少ない」という現状に対し、市の歯科保健事業として様々な取り組みを行ってきたが改善に伸び悩んでいた。そんな中、県よりこの事業について声をかけてもらい歯科保健担当としていいチャンスだと思い、参加することとした。

歯科保健担当としての思いだけで始まったが、こども園、こども園担当課、市内歯科医師会等からの理解・協力が得られ、連携を図りながら実施することができている。また、初年度は県よりフッ化物洗口の実施に係る必要物品の支給や講師派遣等、様々な支援をしていただき、担当として不安もあったが円滑にフッ化物洗口を実施することができた。

保育士や看護師等、現場で実施する職員の負担が懸念されていたが、職員向けに行った事後アンケートでは職員の54.5%が「園児の歯や口に関する関心が高まった」と回答し、81.8%が「フッ化物洗口事業開始後、不安に感じたことはなかった」、91.0%が「施設として、今後もフッ化物洗口を継続したいと思う」と回答した。

また、保護者へのアンケートでは、「フッ化物を実施しても何も変わらなかった」と回答した方が大半ではあったが、「嫌がらずに歯を磨くようになった」「子どもの歯や口の中に関心を持つようになった」等、母子ともに意識の変化が見られた。保護者の86.3%が「フッ化物を実施してよかった」、97.3%が「今後もフッ化物洗口を継続したいと思う」と回答した。

始まったばかりでありフッ化物洗口による歯への効果は確認できないが、職員、母子ともに歯に対する意識が高まったことは現時点での最大の効果ではないかと考える。10年後、20年後の歯への効果を期待し、今後は公立こども園だけでなく私立こども園へ広げる、年長児だけではなく年中児や小学生へ広げる等、幼少期からのむし歯予防の習慣づけができるよう継続して介入していきたい。

Symposium

金沢市立保育所における
フッ化物洗口導入の事例

金沢市立中村町保育所 所長

浦 島 久 美

金沢市では平成29年11月8日「いい歯の日」に「金沢市歯と口の健康づくり推進条例」が制定されました。この条例に基づく具体的な取り組みとして、永久歯が生え始め、最もむし歯になりやすい幼児期にフッ化物洗口を行うことが効果的であるとの考えから、金沢市歯科医師会指導のもと、保育所でフッ化物洗口をモデル的に実施することになりました。

平成30年度に市内の私立こども園、金沢市立薬師谷保育所の2園をモデル園として開始し、令和元年度には、「市立保育所フッ化物洗口事業」として全ての市立保育所（13ヶ所）で実施することになりました。また私立保育園等においても、フッ化物洗口にかかる費用の一部を補助することとなり、現在に至っています。

導入に当たっては①施設長への説明（フッ化物洗口の概要と今後のスケジュールなど）、②職員への説明（フッ化物洗口の概要、役割分担、具体的な実施時間や方法など）、③保護者説明会（フッ化物の必要性、安全性など）と、段階を追って担当の歯科医師の先生より丁寧な説明を受けました。説明を聞いた保護者からは「安全性についても高いことを知り、安心して参加させられる」「園でフッ化物洗口を始めてもらえるのはありがたい」という声も聞かれました。

実施対象は、永久歯が生え始め、また、うがいを上手にできるようになる4、5歳児とし、保護者への希望調査の後、子どもたちにも分かり易いように紙芝居を使って説明を行い、水での十分な練習期間を経て、実際にフッ化物洗口を始めました。最初は1分間のうがいを続けられなかったり、液をうまくはき出せなかったりする子もいましたが、毎日決まった時間に専用のCDの曲に合わせて約1分間うがいを行うことは、今では保育所での生活の一部になり、子どもたちは楽しみながら、職員にとっても負担無く行う事ができています。こうした取り組みを機に、子どもや保護者のむし歯予防への意識が高まることを願います。

むし歯予防全国大会の歩み

大会名	開催年月日	開催地	共催/主管	テーマ
フツ全協第1回全国大会	1977/ 6/11(土)	新潟県	フッ素によるむし歯予防 全国協議会（フツ全協）	う蝕予防のためのフッ化物洗口法、 その理論と実際
フツ全協第2回全国大会	1978/ 7/8(土)	東京都	フツ全協	長野県の齲蝕予防運動における フッ素洗口法を例にとって
第1回フッ素による むし歯予防研究会全国大会	1980/ 2/16(土)	福岡県	福岡予防歯科研究会	フッ素の安全性、活動報告
第2回フッ素による むし歯予防研究会全国大会	1981/ 2/14(土)	福岡県	福岡予防歯科研究会	フッ素、あれこれ、活動報告
'81 むし歯予防全国大会	1981/ 9/12(土)	北海道	'81 むし歯予防全国大会	むし歯予防によるフッ素の役割とは
'82 むし歯予防全国大会	1982/ 11/21(日)	長崎県	長崎県子供の歯を守る会	国際的にみたむし歯予防の現状と展望、 フッ素洗口の実践
'83 むし歯予防全国大会	1983/ 10/22(土)	千葉県	千葉市歯科医師会	フッ化物の応用、砂糖と間食、 フッ素によるむし歯予防の展望
'84 むし歯予防全国大会	1984/ 9/29(土)	新潟県	子供の歯を守る会	関係者がみたフッ素によるむし歯予防
第9回 日本むし歯予防全国大会	1985/ 11/23(土)	福岡県	福岡予防歯科研究会	日F会議の明日を考える
第10回むし歯予防全国大会	1986/ 11/8(土)	静岡県	静岡県子供の歯を守る会	「フッ化物によるむし歯予防の実践について」 「世界にみる歯科保健とフッ素」
第11回むし歯予防全国大会	1987/ 7/12(日)	宮崎県	宮崎県子供の歯を守る会	市民の手で水道水フッ素添加を！
第12回むし歯予防全国大会	1988/ 11/26(土)	神奈川県	神奈川県歯科大学 口腔衛生学教室	WHOの目標を達成するには
第13回むし歯予防全国大会	1989/ 10/8(日)	北海道	旭川歯科医師会、 北海道子供の歯を守る会	むし歯予防で噛める子を
第14回むし歯予防全国大会	1990/ 11/17(土)	東京都	神奈川県歯科大学口腔衛生学教室、 子供の歯を守る会	いまなぜフッ素応用か 今後の歯科界の方向性の検討
第15回むし歯予防全国大会	1991/ 11/22(金)	山口県	山口県歯の健康を守る会	地域歯科保健とフッ化物の応用 地域歯科保健の現状と課題
第16回むし歯予防全国大会	1992/ 11/14(土)	群馬県	渋川北群馬歯科医師会	8020運動とフッ素の関わり こどものむし歯を減 らすのに何が出来るか、何をすべきか
第17回むし歯予防全国大会	1993/ 11/27(土)	京都府	京都府歯科医師会	生涯歯科保健におけるフッ化物応用の意義 8020運動達成に向かって
第18回むし歯予防全国大会	1994/ 11/12(土)	新潟県	新潟県歯科医師会、 新潟市歯科医師会	日本におけるフッ素利用のレベルアップと その実践
第19回むし歯予防全国大会	1995/ 11/11(土)	宮城県	仙台市歯科医師会、 みちのく子供の歯を守る会	むし歯予防のあらゆる方法を考える
第20回むし歯予防全国大会	1996/ 11/16(土)	福島県	福島県歯科医師会、 福島市歯科医師会	永久歯のむし歯予防をめざして
第21回むし歯予防全国大会	1997/ 11/16(日)	長崎県	長崎県子供の歯を守る会	New challenge toward the 21st century Children's healthy smiles are future smile － すべての人々が健康に －

第22回むし歯予防全国大会	1998 11/14(土)	和歌山県	和歌山県歯科医師会、 和歌山県学校歯科医会	フッ素とむし歯予防 基礎から地域保健活動の実際まで
第23回むし歯予防全国大会	1999/ 11/14(日)	東京都	日F会議関東ブロック有志、 日本大学松戸歯学部衛生学教室	Fluoride for everyone － すべての人々が健康に －
第24回むし歯予防全国大会	2000/ 11/5(日)	東京都	宮崎県子供の歯を守る会	水道水フッ素化実現のために － 健康はみんなの願いです －
第25回むし歯予防全国大会	2001/ 11/25(日)	長崎県	長崎フロリデーション協会	Health for all － Building a fluoridation bridge over health divide－
第26回むし歯予防全国大会	2002/ 11/17(日)	東京都	NPO日F会議有志 (NPO法人化第1回大会)	フッ化物応用とヘルスプロモーション － エンパワメントとフッ化物利用の普及 － 科学的根拠に基づいたむし歯予防活動の実践
第27回むし歯予防全国大会	2003/ 10/25(土)	山梨県	山梨県歯科医師会、 山梨子供の歯を守る会	－ 小さな努力で大きな効果、 みんなの健康をみんなで作ろう A LOVELY SMILE with YOU! －
第28回むし歯予防全国大会	2004/ 7/3(土)	佐賀県	佐賀県歯科医師会、佐賀県	温故知新 むし歯予防「フッ素」の過去・現在・未来
第29回むし歯予防全国大会	2005/ 10/15(土)	香川県	香川県歯科医師会、 香川県国民健康保険団体連合会、 香川県フッ素利用を推進する会	地域住民を主役とする健康づくりのために ～ フッ化物の正しい情報を提供する ～
第30回むし歯予防全国大会	2006/ 10/28(土)	東京都	NPO日F 第30回記念大会	日本のフロリデーションをすすめるために
第31回むし歯予防全国大会	2007/ 11/23(金)	沖縄県	沖縄県歯科医師会、沖縄県	むし歯ゼロへの近道、フッ化物応用
第32回むし歯予防全国大会	2008/ 11/22(土)	大分県	大分県、大分県歯科医師会	健康格差の是正を目指すこれからの歯科保健 ～ フッ化物応用による健康づくり ～
第33回むし歯予防全国大会	2009/ 11/14(土)	富山県	富山県むし歯予防フッ素推進 市民ネットワーク	健康格差のない社会を目指して － 誰でも、どこでも、フッ化物応用で 『いい歯で健康、元気富山』 －
第34回むし歯予防全国大会	2010/ 9/25(土)	北海道	北海道歯科医師会、 北海道歯科衛生士会、 北海道子供の歯を守る会	地域歯科保健の新たな潮流 ～ フッ素で歯がカラUP! 8020推進条例を基盤にして ～
第35回むし歯予防全国大会	2011/ 10/23(土)	千葉県	千葉県歯科医師会、 千葉県歯科衛生士会	地域保健の原点を呼び戻そう! ～ 8020を目指した1歳からの健口づくり ～
第36回むし歯予防全国大会	2012/ 11/18(日)	東京都	特定非営利活動法人 日本むし歯予防フッ素推進会議	フロリデーション実施への道すじをつくる (グループワーク)
第37回むし歯予防全国大会	2014/ 10/4(土)	岐阜県	岐阜県山県口腔保健協議会、 朝日大学歯学部口腔感染医療学 講座社会口腔保健分野	フッ化物洗口で街が変わった!!
第38回むし歯予防全国大会	2015/ 11/7(土)	佐賀県	佐賀県歯科医師会、佐賀県	健口健歯 ～ フッ化物が創る未来 ～
	2016/11/5(土)	熊本県	－ 熊本地震のため、1年延期 －	
第39回むし歯予防全国大会	2017/ 10/21(土)	熊本県	(一社)熊本県歯科医師会、熊本県、 熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育 委員会、(一社)熊本市歯科医師会	健口長寿 ～ フッ化物の応用・継続の力 ～
第40回むし歯予防全国大会	2018/ 11/10(土)	宮崎県	宮崎県・宮崎県教育委員会・ 宮崎県歯科医師会	健康歯援 ～ フッ化物によるむし歯予防をすべての 子どもたちに ～
第41回むし歯予防全国大会	2019/ 11/16(土)	秋田県	秋田県歯科医師会・秋田県・ 秋田県教育委員会	「目指そう健口寿命も日本一！」 ～ 秋田の健口づくり『これまで』と『これから』～
第42回むし歯予防全国大会	2021/ 10/9(土)	新潟県	新潟県歯科医師会・弥彦村・弥彦村 教育委員会・新潟大学歯学部・ 日本歯科大学新潟生命歯学部・ 明倫短期大学・ 甲信越北陸口腔保健研究会	フッ化物洗口とともに歩んだ歯科保健活動 － 50年
第43回むし歯予防全国大会	2022/ 11/5(土)	石川県	石川県歯科医師会、石川県	フッ化物で育む未来の健口 ～ はじめの一歩を踏み出そう むし歯ゼロ社会をめざして ～

Q&A knowledge is power

Q1 うっかり飲み込んでしまったら、どんな影響がありますか？

A1 1回分を間違っただけでも問題ありません。例えば体重20kgの園児が急性中毒を起こすのは、約80回分の洗口液を一度に飲み込んだ場合です。

Q2 何歳から始めて何歳まで続ければよいですか？

A2 うがい上手にできるようになる4歳から始めて、第二大臼歯が萌出して成熟する中学卒業まで続けるのが基本です。大人のむし歯にも効果がありますので、生涯継続することが理想です。

Q3 定期的に歯科医院でフッ素（フッ化物）を塗っています。

A3 フッ化物のとりすぎになりませんか？

日本では高い安全基準に基づいてフッ化物が認可されています。歯科医院で定期的にフッ化物を塗り、フッ化物配合の歯磨き剤を併用することで、より高いむし歯予防効果が期待できます。取りすぎにはなりませんので、安心して続けてください。

Q4 フッ化物洗口を行っているのにむし歯になってしまいました。

A4 なぜですか？

フッ化物洗口の前からあたって隠れていたむし歯や、すでにあるむし歯には効果がありません。また、むし歯予防効果は40～60%であり、むし歯が全くなくなるわけではありません。

フッ化物洗口
をはじめませんか

みんなで「ブクブク」
「カブカブ」
むし歯予防



フッ化物（フッ素）洗口は、フッ化物を溶かした水でうがいをするだけの、簡単なむし歯予防方法です。保育所や幼稚園、小学校や中学校などで全国的に広く取り入れられています。

一般社団法人 石川県歯科医師会

**保育施設等で
フッ化物洗口を始めるには**

施設職員の理解と協力

- ・歯科医師による説明
- ・具体的な手順の打ち合わせ

保護者の理解

- ・歯科医師による説明
- ・パンフレットの配布
- ・同意の確認

実施準備

- ・器材等の購入
- ・うがいの練習

フッ化物洗口開始

フッ化物洗口に関する問い合わせ先

石川県歯科医師会
TEL：076-251-1010

県内の保育所、認定こども園、幼稚園※において集団でのフッ化物洗口を導入するにあたり、**石川県・金沢市から支援を受けられる場合があります**

※対象施設等、事業の詳細については、下記に問い合わせください。

(問い合わせ先)

石川県内の施設（金沢市内の施設を除く）

石川県健康福祉部健康推進課
TEL：076-225-1584

金沢市内の施設

金沢市こども未来局保育幼稚園課
TEL：076-220-2299

**参考
文獻**

石川県フッ化物洗口マニュアル
令和3年3月石川県発行



発行：令和4年8月

18

フッ化物のむし歯予防効果

① 歯の質を強化

フッ化物が歯に取り込まれることで、歯の質が強化され、酸に溶けにくくなります。

② 初期むし歯を修復

フッ化物は、むし歯になりかけの歯から溶け出したカルシウムなどが、再び歯の表面に戻ろうとする作用（再石灰化）を助け、歯の修復を促進します。

③ むし歯菌の抑制

フッ化物の抗菌作用により、むし歯菌の働きを抑え、酸の産生を抑制します。

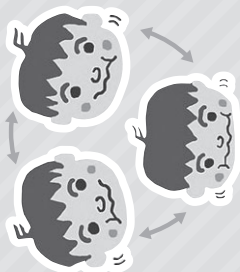
ライフステージに応じたフッ化物応用

フッ化物の応用は生涯を通じて行うことが重要であり、特に、むし歯になりやすい時期にフッ化物を適切に利用すると大きな効果が期待できます。

	乳 児	保育所 幼稚園	小学校	中学校	高校～大人
年 齢	0	1	2	3	4
	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	～
家庭での応用	(乳歯が生えてきたら) フッ化物配合歯磨き剤を用いた歯みがき				
	(4歳～) フッ化物洗口				
かかりつけ 歯科医院での応用	(1歳～)				
保健センター 等	(1歳～)				
地域の 応用	(1歳～)				
保育所・幼稚園 小・中学校	(4歳～) フッ化物洗口				

フッ化物洗口の方法

- ① 洗口液を10ml口に含みます。
(就学前の子どもの場合は5ml)
- ② 30～60秒間、お口全体に行き渡るようにブクブクうがいをしてください。
- ③ うがいが終わったら、静かに吐き出します。このあと30分間は、お口に何も入れないでください。

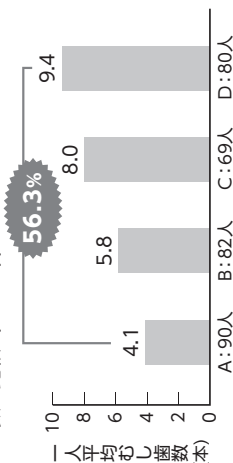


フッ化物洗口のむし歯予防効果

フッ化物洗口のむし歯予防効果は40～60%です。

フッ化物洗口は、永久歯の萌出直前から開始し、最後の永久歯が生えて2、3年後まで継続することが基本です。そのため、うがいが上手にできるようになる4歳（保育所の年中）から第二大臼歯の萌出が完了して2、3年後の中学卒業まで継続することが推奨されます。図は、新潟県内の高校2年生を対象に、歯科健診後に過去のフッ化物洗口経験を確認し、一人平均むし歯数を比較したものです。フッ化物洗口経験年数が長くなるにしたがって一人平均むし歯数は少なく、就学前の4歳児から小・中学校を通じて11年間洗口を経験した群は、経験のない群に比較して、56.3%の予防効果を示したことが報告されています。

■ フッ化物洗口経験別高校2年生一人平均むし歯数の比較（1990年）



A群：4歳児から保育所・幼稚園及び小・中学校の11年間を通じて経験
B群：小学校を中心に6～9年の経験
C群：園または中学校を中心に1～5年の経験（大半は1～2年）
D群：洗口経験なし

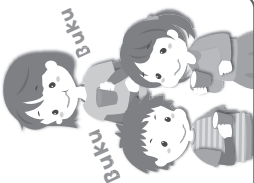
出典：新潟県「フッ化物洗口マニキュアル」

集団で行うフッ化物洗口のメリット

フッ化物洗口は、個人で行うよりも集団で実施する方が、継続的に実施できる等の理由から公衆衛生特性が優れており、高いむし歯予防効果が期待できるといわれています。

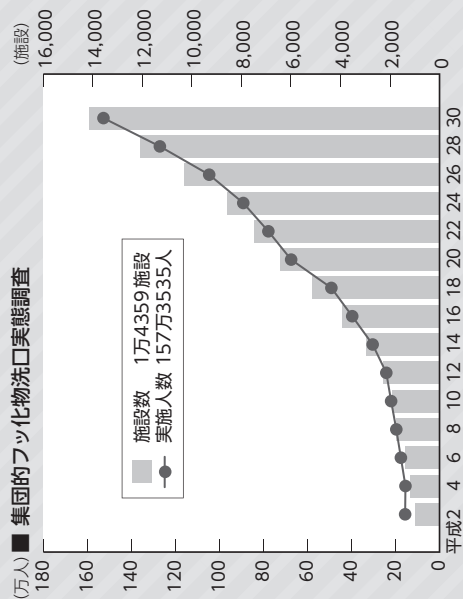
集団で行うフッ化物洗口のメリット

- 継続性が保たれる
- 実施している施設内のフッ化物洗口に参加している子ども達に効果が現れる
- 個人で行うより経済的であり、安全に実施できる
- 子どもたちの自分の歯に対する関心が高まる



集団的フッ化物洗口実施施設数と実施人数の推移

保育施設、幼稚園、小学校、中学校で集団的フッ化物洗口を導入している施設は、年々増加しています。



出典：●NPO法人日本フッ化物むし歯予防協会（前身：日F会議）・ほか
「全国の集団フッ化物洗口実施状況の推移（平成2年～平成28年）」
●厚生労働省「各都道府県におけるフッ化物洗口の実施状況について（平成30年）」

う蝕予防フッ化物洗口剤

薬価基準対象外

オラブリス[®] 洗口液 0.2%

900ppmF 溶液 10mL ポーション / 500mL ボトル

フッ化ナトリウム洗口剤

溶液タイプは衛生的で手間いらず

集団洗口に最適!!

劇薬管理※
調製
溶解
不要

オラブリス洗口用顆粒11%と比較した場合

※劇薬は他のものと区別して保管しなければならない
(薬機法第48条)



オラブリスの
Q&Aはこちら



フッ素戦隊 オーラマン

500mL ボトル

ポンプは別売になります。

【別 売】専用ポンプ(1本入)
1プッシュ 5mL

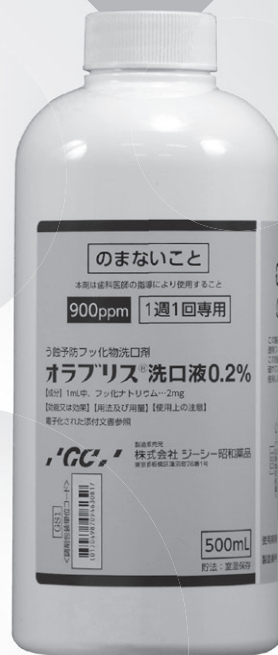


10mL ポーション

製剤写真には旧社名が表示されています。

【貯 法】

10mLポーション / 500mLボトル
室温保存 (1~30℃)



■効能・効果

齲蝕の予防

■用法・用量

1. 毎日法

通常フッ化ナトリウムとして0.05~0.1%溶液5~10mLを用い、1日1回食後又は就寝前に洗口する。

2. 週1回法

通常フッ化ナトリウムとして0.2%溶液5~10mLを用い、週1回食後又は就寝前に洗口する。

〈洗口方法〉

薬液を口に含み、約30秒間薬液が十分に歯面にゆきわたるように含み洗いさせる。次に薬液を十分に吐き出させる。
1回に口に含む液量は、年齢等による口腔の大きさを考慮して定めるが、通常未就学児で5mL、学童以上で7~10mLが適当である。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

- (1) 使用に際しては間違いなく洗口ができることを確認してから使用させること。洗口ができない場合には、水で洗口を練習させること。飲み込むおそれのある幼・小児には使用しないこと。
- (2) 飲み込まないように指導すること。
- (3) 指定した使用量を守るよう指導すること。
- (4) 使用方法(洗口液の調製法、洗口方法)については十分に保護者に対して説明し、家庭での幼・小児の洗口は保護者の監督下で行わせること。
- (5) 洗口液の調製法
本剤は水溶液であり、水を加えて軽くかき混ぜることにより濃度の調整ができる。

オラブリス 洗口液 0.2%の量	用 法	水の量	洗 口 液		
			フッ化 ナトリウム濃度	フッ化物 イオン濃度	1mL中のフッ化 ナトリウム量
10mL	週1回法	調製の必要なし	0.2%	900ppm	2mg
	毎日法	10mL	0.1%	450ppm	1mg
	毎日法	30mL	0.05%	225ppm	0.5mg

(6) 洗口の方法

- (1) 1回量5~10mLを口に含み、約30秒間洗口液が十分に歯面にゆきわたるように、口を閉じ頬を動かす「ブクブクうがい」を行う。
- (2) 洗口は、嚥下を避ける目的で、下を向いて行う。

(7) 洗口時の注意

- (1) 洗口の時には、歯をみがくか、水で口をすすぐこと。
- (2) 洗口液1回の量は一度で口に含むこととし、口に含めなかった洗口液は捨てること。
- (3) 洗口後の洗口液は十分に吐き出すこと。
- (4) 洗口後30分間はうがいや飲食物をとらないようにすること。

■使用上の注意

1. 重要な基本的注意

- (1) 歯科医師の指導により使用すること。
- (2) 誤って飲用し、嘔吐、腹痛、下痢などの急性中毒症状を起こした場合には、牛乳、グルコン酸カルシウムなどのカルシウム剤を応急的に服用させ、医師の診療を受けさせること。

2. 副作用

本剤は、使用成績調査等の副作用の発現頻度が明確となる調査を実施していない。

効能・効果、用法・用量、使用上の注意等につきましては電子化された添付文書をご参照ください。

※ 添付文書閲覧アプリ「添ナビ」でGS1コードを読み取ると添付文書情報等を閲覧できます。

製造販売元[資料請求先]

株式会社 ジーシー昭和薬品

東京都板橋区蓮沼町76番1号

TEL: 0120-648-914

〈受付時間〉9:00~17:30(土・日・祝日・弊社休日を除く)

オラブリス
洗口液0.2%
添付文書はこちら

GS1コード(販売包装単位)



(01)14987094630722

OBPB5HM22SCP01
2022年9月作成

一般医療機器 27B2X00325000004



POLISHING PASTE
ポリッシングペースト
1STEP **HARD** 1450ppmF

2022
9月
新発売

PTC & PMTC用歯面研磨ペースト

- ・ポリッシングペースト 1step シリーズ^{*}最大の清掃力
- ・さわやかなシャンペンソーダの香り
- ・ステイン除去から仕上げまで 1step

*ポリッシングペースト 1step F, ポリッシングペースト 1step N, ポリッシングペースト 1step ハード

ポリッシングペースト 1step ハード
容量: 50g

製造販売元 / 株式会社ビーブランド・メディコーデンタル 大阪市東淀川区西淡路 5-20-19

薬価基準対象外 医療用医薬品 劇薬

う蝕予防フッ化物洗口剤

ミラノール[®] 顆粒 11%
フッ化ナトリウム洗口剤

効能・効果：齲蝕の予防



製造販売元 / 東洋製薬化成株式会社 大阪市鶴見区鶴見2丁目5番4号

薬価基準対象外 医療用医薬品

う蝕予防フッ化物洗口剤

フッ化ナトリウム洗口液 0.1%
「ビーブランド」

フッ化ナトリウム洗口剤

効能・効果：齲蝕の予防



製造販売元 / 株式会社ビーブランド・メディコーデンタル 大阪市東淀川区西淡路 5-20-19

ご使用にあたっては、電子化された添付文書をご参照ください。



資料請求先 (株)ビーブランド・メディコーデンタル
大阪市東淀川区西淡路 5-20-19 TEL: (06) 6370-4182

くすりに関するご相談は「医療情報推進部」まで。
☎ (03) 3295-6926
土・日・祝日を除く 9:30~17:00

製品情報
弊社ホームページ
<https://bee.co.jp/>



作成年月：2022.8 5X000TH01

赤ちゃんは、数ヶ月でご飯が変わるから。

子どもに合わせて、ステップむし歯予防



レノビーゴ
RENOVIGO



医薬品メーカーが作ったレノビーゴは、1991年に誕生した子ども用のフッ素入り薬用歯みがき。

STEP 0	STEP 1
子どもに合わせて、 ステップむし歯予防 レノビーゴ RENOVIGO STEP 0 + 0歳からのむし歯予防 + すすがず、そのままでも + フッ素 100ppm スプレータイプ 薬用 レノビーゴ STEP 0 むし歯予防 30mL	子どもに合わせて、 ステップむし歯予防 レノビーゴ RENOVIGO STEP 1 + おやつを食べ始めた + すすがず、そのままでも + フッ素 500ppm スプレータイプ 薬用 レノビーゴ STEP 1 むし歯予防 40mL
STEP 0 歯が生え始めた 0歳から 研磨剤・発泡剤 不使用 特定原材料 不使用 ◆赤ちゃんも使いやすい フッ素濃度 100ppm ◆シュッと使いやすい スプレータイプ ◆すすがず、そのままでも。 フッ素が口腔内に残ります。 (販売名:レノビーゴ)	STEP 1 おやつを食べ始めた 2・3歳ころから 研磨剤 不使用 特定原材料 不使用 ◆ステップ0の5倍濃度 フッ素濃度 500ppm ◆すみがずまていきわたる 泡タイプ ◆すすがず、そのままでも。 寝る前や外出先でも使えます。 (販売名:レノビーゴステップ1)

Zonnebodo Pharma

A Nissha Company

〒193-0832 東京都八王子市散田町5-7-14
TEL.042-661-1171 FAX.042-673-6489

ゾンネボード製薬株式会社

■お問い合わせ **0120-071-648**

<https://zonnebodo.co.jp/renovigo>



詳しい情報は
こちらから！

東芝キヤリア ・ パナソニック ・ エバラ空調機器販売
肥料 ・ 農薬 ・ 農業用資材 ・ 芝生用資材販売
空調設備 ・ 給排水衛生設備設計施工 ・ 太陽光発電
ハウス、温室工事 ・ 農業用土木工事設計施工



日栄商事株式会社

取締役社長 中 村 哲 郎

本 社	〒920-0064 石川県金沢市南新保町口35番地
空調 部門	TEL (076)237-4325(代) FAX (076)237-4327
農 事 部門	TEL (076)237-5241(代) FAX (076)237-2141
福 井 支 店	〒918-8231 福井県福井市問屋町4丁目1104番地
富 山 支 店	〒931-8312 富山県富山市豊田本町3丁目8番地28号

北陸歯科用品商協同組合 石川県支部

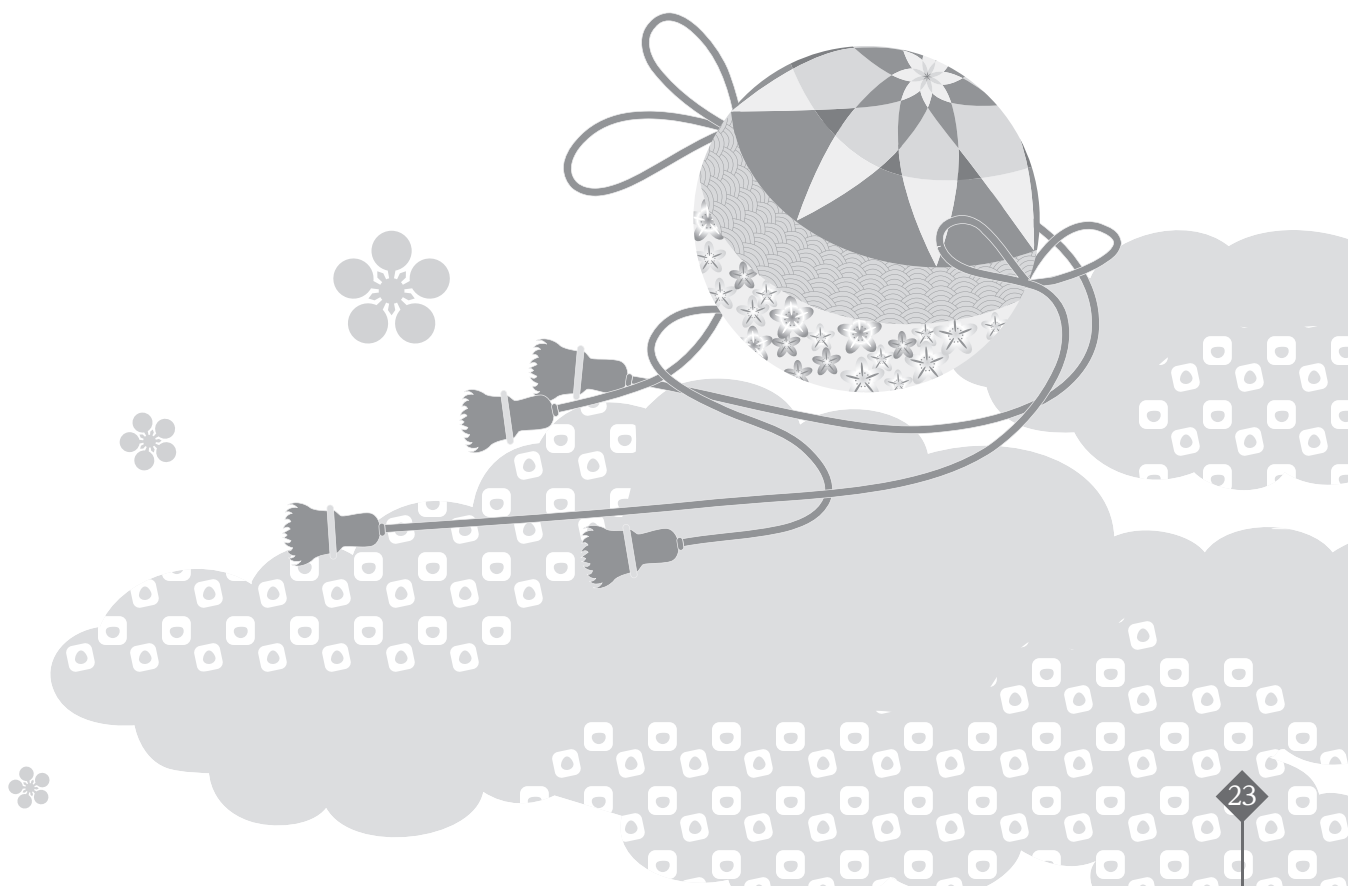
株式会社 A D I . G

株式会社 佐 波

株式会社 西 川 歯 材

株式会社 別 田

(アイウエオ順)



第43回むし歯予防全国大会 in ISHIKAWA

【大会主催】 NPO法人 日本フッ化物むし歯予防協会

【大会共催】 石川県 石川県歯科医師会

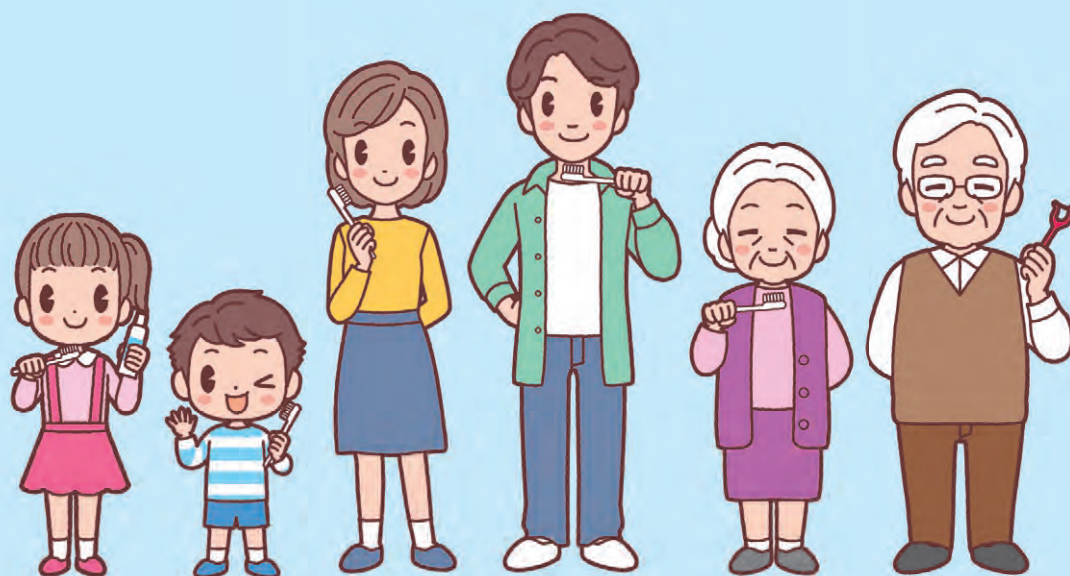
【大会会長】	石川県歯科医師会	会長	飯利 邦洋
【大会実行委員長】	石川県歯科医師会	専務理事	佐藤 修
【大会実行委員】	NPO法人 日本フッ化物むし歯予防協会	会長	荒川 浩久
		副会長	榎田 中外
		専務理事	山本 武夫
	石川県歯科医師会 公衆衛生部	理事	宮田 英利
	公衆衛生部	理事	江尻 重文
	学校歯科部	理事	羽柴 聡
	石川県歯科医師会 公衆衛生委員会	委員長	西郷 直規
	金沢市歯科医師会	理事	南條 麗子
	石川県健康福祉部 健康推進課		平田 佳永

発行

第43回むし歯予防全国大会事務局

〒920-0806 石川県金沢市神宮寺3丁目20番5号
一般社団法人 石川県歯科医師会 内
TEL : 076-251-1010(代) FAX : 076-251-6450

歯みがきで 心と体を健やかに



輝く笑顔、楽しいおしゃべり、おいしい食事、これらを支えているのが歯と口です。
歯と口が健康だと、人とのふれあいや食事が楽しく、いつまでも元気でいられます。
そして、お口の健康を守るとは全身の健康を守ることにもつながっています。

日本歯磨工業会は、私たちの歯と口の健康を守る歯みがきなど
お口のケアのコツをホームページで楽しくご紹介しています。



 **日本歯磨工業会**

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-4 三報ビル7階
TEL:03-3249-2511 <https://www.hamigaki.gr.jp/>

正会員
アース製薬株式会社 | 株式会社アイテック | 花王株式会社 | グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社 | 小林製薬株式会社 |
サイアヤ ファーマ株式会社 | 株式会社サング | サンスター株式会社 | ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 | スモカ歯磨株式会社 | NSファーマ・ジャパン株式会社 |
日本ゼトック株式会社 | 森下仁丹株式会社 | ライオン株式会社 |